

世界遺産へ向けて



ホットな話題 霊峰白山、姿を現す！

今年の1月8日に、勝山市堀名中清水から、雪を戴く白山のすばらしい写真が撮れました。白山は各地から望むことができますが、勝山市北部から望む白山がもっとも美しいといえるかもしれません。

速報 3月に世界遺産フォーラム

3月15日(日)に世界遺産フォーラムを勝山ニューホテルで開催します。世界遺産「白川郷」、「紀伊山地の霊場」、「石見銀山」の関係者と、世界遺産研究の第一人者である西村幸夫東大教授をお迎えし、世界遺産先進地の事例に学びたいと思います。詳細は次号でお知らせしますので、ご期待ください。

平泉寺こぼれ話

～第4話～ 平泉寺と一乗谷朝倉氏遺跡との3

全国に例を見ない巨大な石垣



平泉寺の石垣



一乗谷の石垣

平泉寺には発掘地を含めて多くの石垣が見られます。中でも最大のもは、白山神社本殿前にある高さ3m、長さ110mの大石垣です。今から450年ほど前に築かれたとされていますが、これだけの大規模な中世の石垣は、

全国的に例がありません。

あえてあげるとすれば、一乗谷の入口にある下城戸の大石垣でしょうか。どちらも重要な場所に築かれており、これだけ大きな石垣を築くことができるのだといったことを誇示する初期の例といえます。

発掘現場通信～今月のポイント～

現在、西蓮院跡等で発掘された遺物の整理中！！



遺物の整理作業風景

昨年の平泉寺の発掘調査では、多くの遺物が出土しました。破片数にすると数千点にのぼると考えられます。すべて400～500年前の平泉寺が栄えていたころのもので、

現在、遺物についた泥を落としたり、発掘された場



復元中の青磁の人物燭台

所を記入したりする作業をしています(左上の写真)。

また、今回の特集で紹介している平成16年の発掘地で出土した青磁のロウソク立て(中国製)と考えられる人物像を復元しています(右上の写真)。

整理作業の完了した遺物で特に貴重なものは、教育会館などで展示していますが、ガイダンス施設が平成24年度に完成しますと、そこで展示していくことになります。

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版



No. 4 (2009年1月号)

【発行】

勝山市教育委員会 史蹟整備課

【発行日】

平成21年1月22日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話:0779-88-8113(直通)

メール:shiseki@city.katsuyama.fukui.jp



整備予定の平成16年度発掘地 [水田の下から石畳道が出てきました]

今号の内容

特集 発掘地の整備

連載

★世界遺産へ向けて
ホットな話題、速報

★平泉寺こぼれ話
～第4話～

★発掘現場通信



整備予定の坊院出入口 [出入口の石段と倒された門柱]

平泉寺総合整備最前線！ ～その3・僧坊区画遺構表示～

いよいよはじまる！ 発掘地の整備
遠足にも対応可能！！

今回は、白山神社の南側に広がる南谷三千六百坊跡の発掘調査地の整備についてお話しします。平成3年の発掘調査で見つかった石畳道に接した坊院（平成16年度発掘地）を見学広場として整備します。

今回の整備地



平成3年発掘石畳道



発掘調査では、水田の下から約500年前の屋敷の出入口や石畳道が大変良い状態で見つかっています。一方、屋敷内は削られており、どのような建物が建っていたのかは分かりませんでした。

この屋敷は、東西約25m、南北約50mの大きさで、平泉寺坊院の中では比較的大きなものです。

屋敷の出入口は西向きに設けられており、石段を登ると門が建っていたようです。石段の両脇には門柱が立っていましたが、天正2年(1574)の平泉寺焼失後、水田にするために石畳道内に倒され、完全に地中に埋もれていました。

なお、この屋敷内からは、4ページの青磁ロウソク立てが出土しています。

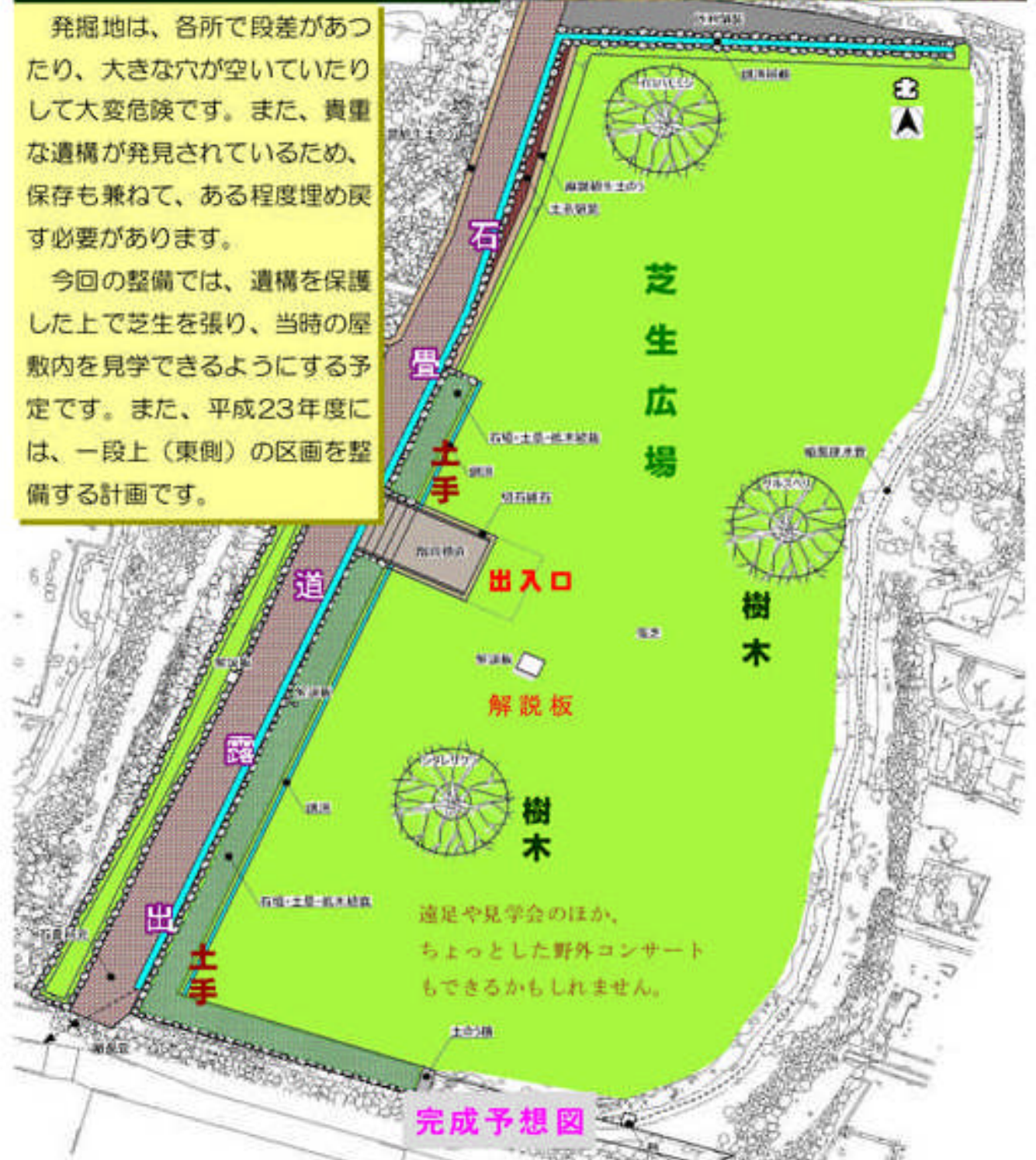
今回、この発掘地は右のページのように整備する予定です。

発掘調査直後の上空写真



発掘地は、各所で段差があったり、大きな穴が空いていたりして大変危険です。また、貴重な遺構が発見されているため、保存も兼ねて、ある程度埋め戻す必要があります。

今回の整備では、遺構を保護した上で芝生を張り、当時の屋敷内を見学できるようにする予定です。また、平成23年度には、一段上（東側）の区画を整備する計画です。



遠足や見学会のほか、ちょっとした野外コンサートもできるかもしれません。